

「JENESYS2.0」2016年度中国高校生訪日団第1陣 参加者の感想（抜粋）

○今回の訪問で一番印象深かったのは学校訪問だ。私達と日本の学生は、国は違っても皆高校生で同年代、互いに理解し合える。日本の高校生との交流を通じ、日本の教育に触れた。教室はととてもリラックスした自由な雰囲気、先生や学生は授業でとても積極的だ。中国はというと、教室は重々しい雰囲気、この点は文化の違いだろう。日本の高校は部活動も楽しく、日本の学生は自分のやりたい事をする時間が十分にある。私はサッカー、バスケット、ブラスバンド等の部活を見学した。中国の学生は部活動に参加する時間が余り無く、専ら教室で勉強している。これは日本の教育上中国より優れていると思う。日本の学生もすばらしい。リラックスした環境の中、いつも笑顔で、私達を温かく迎えてくれたし、校内見学に連れて行ってくれた時も積極的だった。私達は言葉が通じないけれど、気持ちが通じ合えばそんな事は何でもなかった。もう一つ印象深いのは日本のおもてなしだ。宿泊でも食事でも、日本側の心遣いを感じた。私達は日本の伝統的な風情も、ポップカルチャーも味わうことができた。

帰国したら、日本の先進科学技術や伝統文化、それに教育の特徴や日本人の熱意、日本がどんなに素晴らしい国かということを知りたいと思う。

○一番印象に残ったのはホームステイだ。明日香村に着いた時、一面の田んぼとまばらな家々を見てインターネットのない一夜を思い、少し心配になった。でもホストファミリーのおじいさんと家に帰ると、おばあさんが温かいお茶と大学芋で優しく迎えてくれた。二人とも笑顔で、私は心から温もりと優しさを感じた。夕飯は皆で作ったうどんと野菜のかき揚げ。さっぱりしたデザートと冷えた烏龍茶の苦味で、蒸し蒸しする夕方の暑さも吹き飛んだ。雨の後の飛鳥遺跡は静まり返った町のように、時の鐘を鳴らす者もおらず、砂利と砂の軋む音だけが道行く者の心に響く。くねくねと続く小道を歩きながら、江南の烏鎮を思い出した。烏鎮も細い通りに古い民家が軒を並べ、したたり落ちる雨粒の音までも聞こえてくるようだった。夕飯を食べた後、和服を着た。単色の着物にギュッと帯を締め、あたかも100年前の京都の女性のようにはんなりと歩く。ひとしきり興奮した後、畳の部屋に寝転んだ時、この上ない幸せを感じた。人生には少しの茶葉と、家だけあればいい。日が昇れば起き、日が沈めば寝る。都会から離れ、私は大自然のすばらしさを感じた。

これまで、日本人というのは厳格で、余りにも真面目で自立心が強すぎると思っていた。しかし今回の旅行で、陽気で面白い日本人の友達がたくさんできた。繁栄しつつもつましいこの国で、人々はシンプルな生活を楽しみ、伝統を守りつつ信仰心を持って暮らしている。多くのことを考えさせられた。私が見た日本は、とても美しかった。ずっと居たいと思わせるような場所だった。

○今回の訪日では、通訳の先生やスタッフの方の案内で様々な角度から日本を見ていろんなことがわかった。

学校訪問やホームステイを通じ、日本人の日常生活は規則正しいと感じた。学生同士、学生と先生の間には、親しき仲にも礼儀がある。印象深いのは、日本の学校が伝統文

化を大切に守っていることだ。今回訪問した二校には、茶道、剣道、能楽、カルタ等いろいろな伝統文化の部活動があった。

大阪ではアクティブラボとフーハ大阪を見学した。アクティブラボにはいろんな大学の学生達が新しい発想で取り組んだプロジェクトの成果が並び、科学技術の面白さを感じた。

今回の訪日で一番強く感じたことは、科学技術の新たな発展と同時に、伝統文化を受け継ぎ守り伝えていくことにも重きを置いているということだ。

○日本人が細かいことにも大変気を配るといのは世界でも有名だが、今回日本の生活、文化、科学技術等を体験してみて初めて、さすが日本人だと感心させられた。鮮明に覚えているのが、新幹線で大阪に向かう時、スーツケースを別送するので、私はその前日、目的地に届いたスーツケースは自分で取りに行くと思っていた。なんと当日の晩、スーツケースはそれぞれの学生の部屋に一つ違わず、全てきちんと届けられていた。ざっと計算してみたが、全部で100個近いスーツケースを一つも間違えず各部屋に入れ置くなど、私には難しいことだ。だが日本側のスタッフの方々はそれをやってのけた。これには驚いた。私の日本に対する見方と印象が変わった。

帰国したら、今回見聞きしたことを一つ残らず家族や友達に話し、本当の日本を知ってもらいたい。機会があれば皆を連れて一緒に日本の魅力を感じたい。両国が末永く栄え、友好の流れが大きくなって行くように、自分が少しでも両国の友好に役立てるよう心から願っている。

○一番印象に残ったことは日本の高校生の熱意だ。学校に到着した後、日本の同年代の人達と言葉や手振りで交流した。そして、日本の高校生も私達と同様、この交流を楽しみにしていたことがわかった。見ていたアニメも同じものが多く、同じようなことに興味を持ち、趣味も似ている。そして皆友達がいる、すばらしい人生がある。文化的背景や受けた教育は違うが、同じ熱い心を持っている。日中の高校生が互いに理解し合うことで国民同士の友好が続いて行くよう、同じように願っている。

帰国したら友達に、日本の教室の様子やいろいろな部活動の話をしようと思う。中国の部活動の組織はまだ課題が残っているが、日本を参考に学校の部活動の環境を改善できるよう、頑張ろうと思う。

○今回の訪日はとても意義のある活動であった。この活動を通じ日本の文化や日本人の価値観をよく理解できた。

私達のグループの課題は部活動だ。学校交流を通して、日本の学校生活や学生達の価値観もよくわかった。そして中国の学校と違う所もいろいろ感じた。また日本の学校は学生の個性を大変重視していると思った。

日本の学生は毎日部活動の時間がたくさんある。部活の時間になると皆それぞれの部活へ行き、先生がいなくても自分で練習を始め、その成果も凄い。バイオリンの演奏もすばらしいし、ストリートダンスは躍動感たっぷりだ。いろいろな体育系の部活動があるが、学生達は自主的に準備し、組織している。

帰国したら、見たことやわかったことを友達や家族にも伝えたい。もっと多くの人に

日本の文化や日本人の価値観を知ってもらいたい。特に新しいものを作り出す文化、環境保護、学校の部活動、家庭の日常生活等だ。両国が仲良く付き合っていくために一緒に頑張ろうと思う。そしてよい所を取り入れ、悪い所は捨て去る。日中友好がずっと続くよう、願っている。

○1. 心に残ったことはホームステイだ。場所は日本の歴史発祥の地、奈良県飛鳥地区の明日香村。いわば我が国の西安にあたるだろう。初日は雨で、清々しい空気に僅かに土の香りがした。村に到着し、歓迎会の後、各ホームステイ先へ移動した。ホストファミリーは70歳を超えたおばあさんだった。高齢だがとても元気で、言葉が通じず交流もスムーズにはいかなかったが、もてなしの熱い気持ちが伝わってきた。午後と一緒にジャガイモの煮物、大根の牛肉巻き丼を作った。とても美味しかった。肝心なのは、料理の過程を体験したことだ。小さな孫娘さんと一緒に写真を撮ったりして、とても楽しかった。

2. 周りの人達には、日本人の節度や衛生や環境保護の意識を伝えたい。

○ホームステイ:明日香村の美しい景色、日本家屋が周りの山々に溶け込み、互いを守りながら上手く共存している。私達のホストファミリー、親愛なる優しいおじさんとおばあさんに心が温まる。言葉は通じないが、ぎこちなさなど気に留めず本当の家族みたいに寛容で、とても仲良くなった。夜おばあさんが私達を温泉に連れて行ってくれた時、頭にタオルを巻くのを優しく手伝ってくれた。家に帰ると、着物を出して来て私達に着せてくれた。皆感激の余り大はしゃぎしながらポーズを決めて写真を撮りまくった。おばあさんは微笑みながら私達を見ていた。おじさんもやって来て、いいねと一言。最後皆で一緒に写真を撮った時は、本当の仲良し家族のような温もりを感じた。

おばあさんの家族がくれたのは、さりげない温もり。燃えるような熱さで人を焦がすのではないが、長く余韻が残った。

帰国したら、周囲の人達に日本の科学技術や創造性を紹介したい。科学未来館やATCエイジレスセンターでは、先進技術を生活に取り入れる日本人の発想と調整力を目の当たりにした。また、生活の細部まで観察して気を配ることに驚かされる。これこそ若者に必要なことだと思う。ひたむきさ、創造と発明、思い付いたらやってみる、完璧を目指す、どれもすばらしい資質だ。生涯かけて極める価値があると思う。

○ホームステイ中、お母さんの料理を手伝いながら、私達は日本の食文化や様々な行事のことを知り、考えさせられた。ホストファミリーはとても親切で、私達の希望を聞いてデパートに連れて行ってくれた上、いろいろ案内してくれ、私達が買いたい物を探すのに根気よく付き合ってくれた。とても感謝している。

東大寺の見学で印象深かったのは、すばらしい建築でも独特の文化でもなく、あの可愛くて憎たらしい鹿達だ。彼らはあちこちに集まってのんびり座っていたり、はたまた首を伸ばして人に餌をねだりにくる。しかし、餌をやって初めて鹿達の凶暴さを知る。餌めがけて舐めまわしてくるし、頭や角を擦り付けてくる。うっかり気を抜いて噛まれたり角で突き飛ばされたら、もう素敵な体験とは言えない。

要するに、日本にはすばらしい資質や文化がある。もっと多くの人々がそれを理解し、

学んで、自分自身を豊かにしていく必要がある。

○今回の訪問を通して、日本側が綿密に準備した数々の活動を体験し、日本の食文化、映像文化等、多彩な日本文化を知った。中でも、二回の名門高校訪問で高校生と交流したことが一番印象に残っている。教室での授業体験、お互いに交流したこと、そして部活動まで、全てが楽しかった。日本の高校生の学習の仕方がよくわかった。中国式の勉強法で学習するより、効率的に学習するためには、もっとよい学習計画を立てられると思う。帰国したら家族や友達に、日本の科学技術と文化と教育、この三つを紹介したい。そしてもっと多くの中国人が日本の優れた点を見習い、各分野で計画を立て、全体の発展に繋がればと思う。

○一番印象深いのはホームステイだ。日本のお母さんが温泉に連れて行ってくれた時、庭いっぱいの青々とした木々を見ながら、私達は荷塘月色や水調歌頭を歌った。出発の日、お母さんは水が入ったペットボトルをせっせと布を巻いて持たせてくれた。そして人ごみの中から、背が低い自分を目立たせるよう懸命に私達に向かって手を振り、赤の他人だった私達を見送ってくれた。別れ難い温かさに、懸命にタオルを振る私を見て、お母さんは目に涙を浮かべていたと思う。

私が伝えたいのはバランスのとれた人間関係だ。相手が赤の他人でも礼儀正しく接し、優しさをもって働きかける。友好的な感情の基礎ができて初めて、信頼関係が築ける。国際社会でもそうなれば更に有益だ。次に、スポーツの開放を広める。学校の屋外運動はもう走るだけではない。球技等のスポーツは団結力を高めることができるし、これは国や国際社会にとっても力強いことだ。

時が経つのは早い。もしもう一度来れるならまた来たい。無駄な旅ではなかった。

○一番印象深いのは、学校訪問で日本の同年代と交流したことだ。日本側が特別にこのような貴重な機会を設けてくれたおかげで、私達は表現力を磨き、視野を広げることができた。そして実際教室での授業に参加することで、日中の授業の違いを体験できた。文化の授業では、日本の同年代と親しく交流した。彼らから日本に関する知識を得ると同時に、彼らは親切で率直、自分を信じていて楽観的だと感じた。授業も面白味いっぱい、65分の授業は時間がすぐに経ってしまった。体育や部活動では、卓球やバスケットボールで対戦したが、皆よく練習していて、球技が大好きだとわかる。私も彼らのように何かに一発懸命打ち込まなくてはと思う。あちこち気が散って最初から最後までやり通せないようではいけない。私は最初緊張していたが、日本の友達の熱気にのまれ、自信を持って落ち着いて彼らに質問し、交流できるようになった。別れの時には名残惜しく感傷的になってしまった。所詮たまたま出逢っただけ。彼らは人生の通りすがりに過ぎない。ちょっと授業に参加させてくれた後、私達に限りない思い出だけ残し去って行く。しかし、これは間違いなく貴重な経験であり、今後の生活の中で自分にとっていろいろな助けになるだろう。それでも時は慌ただしく流れ、振り返る間も無く9日間の日程が終わろうとしている。明日は帰国の日だ。名残は尽きないが、私はこの経験を通して随分成長できたと思っている。次また会うための別れである。帰国したら周りの人たちに日本の食文化や伝統文化、日本人はどんな人か、私達と日本の授業の違いを教え

てあげようと思う。もしできれば、友達や家族に、日本へ旅行に行ってもっと沢山すばらしい日本を体験するよう、勧めたい。

○一番印象深いのは日本の高校生の学校生活だ。日本の高校では学生達が授業で自分の考えを自由に話し合うことができる。現代社会の授業は、先生が学生達に自由にグループディスカッションする方法で進められた。テーマについて話し合い、各グループで考えを出すのだ。教室では皆の考えがぶつかり、話し合いの火花が散った。これは中国の授業では余り無いことだ。また、部活動も沢山ある。授業が早く終わるので、自分の好きな趣味に打ち込み、能力を伸ばす時間も充分あるのだ。交流を通じ多くのことを学んだ。彼らのすばらしさが強く心に残った。

○人々の資質が高い。具体的には、公共の場では小さな声で話し、人とぶつかった時はどちらが先にうっかりしていたか関係なく、どちらも丁寧な言葉遣いで話す。日本滞在中スタッフも町の人達も従業員や店員まで、皆顔を合わせれば微笑みかけてくれて、別れる時は優しく手を振ってくれ、いつも心がこもっている。順番待ちの列に横入りする人もいない。エスカレーターは皆片方に寄って立ち、急ぐ人達に片方空けておいてあげる。人々が皆感謝の気持ちを持っている。

公共の場所はきれいで、道端には紙くずやゴミはほとんど落ちていない。青い空と白い雲も中国ではなかなか見ることができない。日本に来て何日も経つのに、私の白いスニーカーは余り汚れてないし、黒くなっても無い。公衆トイレもきれいで臭くない。日本の公衆トイレは唯一私が安心できるトイレだ。子連れのお母さんに便利な設備がある等、人に優しい設計になっている。

一番大事な学校交流では、日本の友達や先生方皆に親切にもてなして頂いた。大阪の学校でダンス部に参加したのだが、皆可愛く、面倒臭がらず教えてくれた。別れの時にはバスの窓の下から大きな声で別れを叫び、野球部は校門の外まで来て見送ってくれた。是非また会いたい。

○今回の訪問で最も印象に残ったのはホームステイと学校訪問だ。学校訪問では英語の授業に参加した。まず感じたのは、日本の学生の熱意とおおらかさだ。教室に入ると皆次々と私達に挨拶をしてくれた。授業中も積極的で、先生が一つ出題すると、皆我先に答える。答えが違っていても気にしない。これは私達中国の学生と明らかに違う。まさに私達が日本の学生に学ぶべき所だと思う。また、カリキュラムも私達とは大きく違い、日本の学生は部活動の時間が充分にあるので、多くの時間を得意分野に費やせる。だから学習面は若干手薄になっているかも知れないが、スポーツや芸術に関しては私達とは比べ物にならない。中国の教育は日本に学ぶべきだと思う。“万能”な人間を造ることを強要しないことだ。何故なら“万能”に比べて、何か一つの分野に長けた人の方が社会の中で足場を見つけやすいからだ。この他、ホームステイでも多くのことを得た。中でも、日本人に対する印象が変わったことは大きい。以前は歴史書で日本人を理解していて、イメージは確かに良くなかった。しかし、ホームステイ体験で、日本人の優しさと道徳を深く感じた。しかも私のホストファミリーの御主人は中国が大好きで、中国の歴史も知っていた。私達は夜通し語り合い、とても楽しかった。

帰国したら日本で見聞きしたことを家族や友達に伝え、もっと日本のことを良く知ってもらい、両国人民の友情を深めたい。

○今回の訪問は、日本の文化、歴史、民情、科学技術と多岐に広がり、日本に対する理解を深めることができた。文化施設や学校訪問等、全てが印象に残っている。しかし一番印象的だったのは、ある日本人と運転手のちょっとしたやりとりだ。私達はちょうど大阪城の見学に行く所で、バスがカーブしようとした時、一人の男性が自転車で直進して来た。運転手は減速して停止し、その人を先に行かせた。すると自転車の男性は運転手に向かってお辞儀をし、何度も感謝していた。このやり取りから、日本人同士が互いに思いやりを持っていることと交通規則を重んじていることがわかる。これもまさに私が帰国後周りの人達に伝えたいことで、この点は日本に学ばなくてはならない。

○日本の通りには緑の植物が沢山ある。青い空には薄雲が丸く浮かび、道端には色とりどりの花が咲く。なんと美しい景色だろう。

日本の高校生活は内容豊富で、いろいろな部活動や学校行事に目を奪われた。楽しそうな部活動が沢山あって少し羨ましい。それに、午後も早く授業が終わる。

一番忘れられないのは勿論ホームステイだ。明日香村で一晩、日本の伝統的な畳の生活を体験した。おじいさんと芋掘りもした。道中の景色は美しく、彼岸花が満開だった。家に帰るとおばあさんがお寿司の作り方を教えてくれた。見た目は余り上手くできなかったが、自分で作ったお寿司を食べると何だか嬉しくて、味わい深かった。

夜、おばあさんが和服を着せてくれた。かなり本格的なもので和服を着ると、その美しさに見合うよう、いくらかお淑やかにならざるを得ない気がした。

次の日、村を離れる時、堪えきれず泣いてしまった。本当に感動した。こんな忘れ難い体験ができてとても感謝している。

○学校交流では、教室の授業で余り上手く表現できなかったが、日本のクラスメイトと先生が沢山励ましてくれた。その思いやりにとっても感動した。

私は家族や友達やクラスメイトに、日本という国は行って見て良く知る価値があると教えてあげたい。中国と日本の間には相容れない問題もあるが、民間交流は絶やしてはいけない。自分達が頑張って日中友好に貢献すべきだと思う。

今回の日本の旅ではいろいろ考えさせられた。中でも日本人の生活を体験するホームステイは他に無いものだ。ホストファミリーの思いやりや真心のもてなしにとっても感動した。異国の地で温もりを感じた。本当に忘れられない。また日本に来る機会があれば、必ず明日香村のホストファミリーに会いに帰って来る。これは大切な民間交流だ。

○一番印象に残ったのは河村能舞台だ。入り口を入るとすぐに能劇十五徳が目に入る。一、祈らずして神徳を得る、二、望まずして高位と交わる、三、老いずして古事を知る、四、触れずして仏道を知る、五、軍せずして戦場を知る、六、行かずして名所を知る、七、学ばずして忠孝を全うす...まだあったが良く覚えていない。これらの言葉に瞬間に能劇の世界に引き込まれた。そこに含まれる哲学的な意味が実に面白い。

能劇が語っているのは幽霊の世界だ。戦死した人や冤罪で死んだ人が、怨念を持って

あの世の入り口から出て来て自分の物語を語る。登場するのは夫に裏切られて角が二本生えた般若や、年頃の美しい少女、はたまた黄色い顔の農業神だ。そして少しおどろおどろしい能面は、100年以上の歴史がある。

能管の音が響き始めると、強い風が吹き、山や丘の松の木がザワザワ揺れているような感じに襲われる。うら寂しさに、もうそれ以上聞いていられなくなる。唄い手は傍に座るが、その声は人間離れした、山から鳴り響いて来る神の厳かな怒りのような声だ。

帰国したらクラスメイトに明日香村の風景や飛鳥地区の歴史の深さ、日本の発達したサービス業、消費者への心遣い、日本の町、空、そこで懸命に生きる人達、そして私自身が実際に見聞きしたことを沢山紹介したい。

○今回の訪問で一番印象深いのは日本人の礼儀正しさと親切、古都の建物と社会の温かい雰囲気だ。

日本に着いて初めは、会えばお辞儀して挨拶したり、微笑んで頷いたり、いつでも「ありがとう」と「すみません」、口を開けば敬語ばかりの生活に馴染めなかった。でも数日経って、慣れた上に何とそんなマナーが好きになってしまった。そこには思いやりや温かさが感じられ、年齢を問わず互いに相手を尊重していることがわかる。順番に並ぶ、小声で話す、物腰が丁寧等、文明的な立ち振る舞いは、ここ数日の日常に溢れている。ホームステイでもホストファミリーがとても親切で、おじいさんは私達にずっと、頑張っていて勉強して将来日中関係を発展させて欲しいと切に期待していた。私も自分が日中交流の使者になれたらと思う。

京都と奈良、歴史と文化の二つの古都では、建物の高さが規制され、色や改築デザインも全体が古都の雰囲気に合うように色調が統一されている。この古風ゆかしき建築の背後には多くの市民の理解と協力がある。文化財の為なら自分の小さな利益を犠牲にすることも厭わない精神に感服する。文化を伝承しながら絶えず新しい物を作り出し、その地域の現代文化を発展させることによって地域を知って貰い、それが地域全体の発展に繋がる。

ここ数日、日本ではエレベーターのボタンを押してくれる、脱いだ靴も並べてくれる、人に迷惑をかけないように考えてくれる等、どんな人や職業でも尊重されている。帰国して一番皆に共有したいのはハイテク技術ではなく、時間を守ることや平等という考え方、そして“他人に迷惑をかけない”という精神とマナーだ。更に大事なものは物事は集中してやるということだ。小さなことも極めて正確に！そうすれば中国の発展のためにもなるし、日本人を理解することにもなる。そして隣国の人々が友好的なことをもっと皆に教えてあげなくてはいけない。

○関東国際高校でも大阪の桜塚高校でも、たくさん交流して話題は尽きなかった。肌や髪の色が同じで、文字の発音や形も似ているので、すぐに慣れて仲良くなり、分かり合えたのだと思う。関東国際高校では中国語のできる学生と交流できたし、桜塚高校では授業や部活動を体験し、学生同士の距離がぐっと縮まり、何処にいても親しみが持てた。実は私達はとても似通っていて、同じような趣味や夢や悩みを持っている。交流にも熱が込められた。明日香村のホームステイでは日本人の親しみやすさを感じた。唐招提寺、東大寺、大阪城等、文化的見所のある観光地にも行き、日本の都市計画や政策、文化や

風情を知った。この訪日交流活動に参加できてよかった。

○私は元々日本人に良い印象を持っていたので、特に印象が変わったということはない。ただ実体験を通して、日本人のマナーや紀律水準の高さを知り、更に尊敬の気持ちが強くなった。

今回の文化交流は成功だったと言いたい。例えば茶道、剣道、合気道、柔道等独特な文化についてもある程度理解できたし、実際に体験したことで身近に感じ、惹きつけられた。また、食文化や音楽、教育についても互いに紹介し合い、文化交流で伝えるという趣旨に沿って話し合いができた。私はこの活動を通し、日中両国間の問題は世代を超えて伝わることなく、新しい世代の交流を通して許容し、分かり合えるのではないかと思った。

○一週間に亘る今回の日本交流は、私達学生にとって印象深いものであった。浅草、金閣寺、国際マンガミュージアム等、行く先々で日本独自の美を体験し、日本の代表的な文化を理解することができた。また、衆議院では音を立てず静かに見学をし、政治の場が神聖なものに感じられた。ぶらぶらしたり、道を歩いている時でも皆時間を見て、整然と自分のすべきことに集中し、落ち着いた雰囲気がある。習近平主席は「中日は引越しできない隣人同士だ。よく行き来して交流しなければならない。」と仰った。私達は今回二度の学校交流でも、日本の学生や先生の温かいもてなしや細かい心配りを感じた。日本の学生のパフォーマンスを見て、柔道、剣道、茶道、そしてとても感動的なダンス等、部活動がどんなものかわかった。ホームステイではお父さんとお母さんが盛り沢山の朝食と夕食を準備してくれて、私達も和食を作る体験ができた。部屋はとても広く、私達は中国の両親にハガキを書いた。二人から日本の温かいもてなしの心を感じた。別れの時には写真も頂いた。だいぶ名残惜しいが、また機会があれば日本に来たいと思う。

○今回一番印象深いのは学校交流だ。両国の教育制度が違うこと、生活習慣や趣味では同じ部分もあることがわかった。私達はとても友好的に楽しく交流した。学校生活から趣味娯楽まで語り合い、そこで両国の人々の友好を感じた。中日両国は引越しできない隣人同士だ。祖国の担い手として両国友好交流の懸け橋になれるなら、嬉しいし光栄だ。帰国したら皆に、青少年同士仲良くなったことや、今回の日本の旅での興味深い経験を伝えたい。

○今回の訪問で一番印象深いのは明日香村のホームステイだ。私と友達三人のホームステイ先はお寺だった。初めは壁画や不気味な仏壇を見て背筋を伸ばしていたが、家族同然にいろいろ気にかけて貰い、まるで家に帰って半月会っていない家族に会えたような気がした。環境にもすぐ馴染み、もう明日香村の一村民になったような気がした。一緒に今年のかかしコンテストを見に行ったり、夕食を一緒に作ったり、一緒にゲームをして遊んだりして、ここが私の日本の家だと思った。帰国したら、この温もりを伝えて行きたい。そしてもっと沢山人に、日本人はテレビドラマと全く違うこと、親切に温かくもてなししてくれたこと、平和を愛する、私達と同じ人間だということを知って欲しい。この国や人を色眼鏡で見たいはいけない。政治の上では相違もあるだろうが、それが

両国民の友好を左右してはいけない。私達は母なる地球の子供達なのだ。

○今回ホームステイと学校交流が強く印象に残った。ホストファミリーのお父さん、お母さんはとても親切で、二人暮らしだが毎日楽しく前向きに充実した生活を送っている。「世界中で一番大事なことは何だと思う？恋愛？学習？健康？どれも違うよね、それは命。次に親孝行な人になること。そうすれば、自分達の次の世代にもずっと伝わっていく。良き手本になりなさい。」ホストファミリーのこの言葉を、私はまだ覚えている。

日中両国は国は違っても、文化や食べ物は同じ部分がある。思想も命や親孝行と同様に大切に、これは疑い無く、両国民共通の心だ。

日本の高校生は毎日沢山面白い授業がある。学校では自分の手を動かして完成させる課題を設け、学生は自分で研究、実験、発表のスピーチをする。自習室では、学校が閉まる時間まで多くの学生がパソコンを持ち込み課題に取り組んでいる。だから日本の高校生は取り掛かる能力に優れていて、処理能力が高いのである。

日本滞在期間中一番多く耳にしたのは、また必ず日本に来てという言葉だ。私もいつかまた日本に来たいし、まだ日本に来たことがない友達や家族も連れて来て、違う国の文化やサービスを体験してほしい。

○今回の訪問を通して多くのことを感じ、学んだ。しかし一番印象深いのは、細部に見て取れる日本人の優れた資質や態度だ。最初日本に着いた時から全て適切に段取りされていて、内容を細かく記載した、ホテルの地図まで載っているしおりが一人一冊配られた。食事場所に到着すれば人が待っていて席に案内してくれ、快適だった。また、冗談を言うならば、トイレはホテルのように綺麗で清潔、嫌な臭いも無く、逆に良い香りで満ちていた。ゴミ箱はどこも分類式で、これも日本人の品性を現している。学校交流では日本の学生達がきちんと制服を着て、皆明るく大らかで、私達にも親切で、気分が悪くなるようなことは少しもなかった。

帰国したらクラスメイトに日本のすばらしい自然環境や文化、習慣を紹介し、良い所に習い、日中の友好関係を更に一步深めたい。

○今回の訪問で印象深いのは大阪の学生との交流だ。大阪府立四條畷高等学校の交流では、いろいろ考えさせられた。学校に入る時は靴を脱ぎ、校内の清潔を保っている。実際校内は非常に清潔で、紙屑一つ見なかったし、白い靴下が埃で汚れることもなかった。校内に売店は無く、代わりに自動販売機が沢山並び、混雑を緩和していた。私達は創意工夫溢れる英語の授業を受けた。英語の教材は生活に密着したもので、グーグル社が開発した自動運転車の話だった。ユーモアある先生が、生き生きとした英語で私達に自動運転車の背景を話し、私達はその長所と短所を挙げ、自由に自分の意見を発表した後、教科書の本文に入る。先生は本文を読む前にも、例えば各段落の最初の一文を読む等、英語の勉強に役立つちょっとしたコツを教えてくれた。茶道の授業も受けた。時間は短かったが、その立ち居振る舞いから、日本文化を大切にしていることがわかる。物を手取る時はいつも両膝について跪き、お茶菓子やお茶を運んで来た時は恭しくお辞儀をする。彼らを見ていれば、多種多様なハイテク製品は有っても、文化を尊ぶ気持ちを捨てていないということがわかる。このように、伝統文化を伝承するという点は学ぶべき

だと思う。

○参加前、日本人は付き合いにくく気性が荒いと思っていたが、参加後、親切でユーモアがあってもてなし上手だと思った。

日本の学校は課外活動が沢山あり、学生は自由に部活動に参加できる。学校は学生に色んな選択肢から好きなことを選ばせ、学生は自分の選んだ好きな活動に打ち込む。日本の学生との交流はリラックスしてとても楽しいものだった。彼らの熱意を感じた。

○今回の日本訪問は初めての海外だ。この神秘の国に来て、とても興奮している。北京での事前研修で、日本の国情や礼儀について入れ替わり立ち替わり教授から一通りの内容を聞き、外国へ行くのは面倒だなあと思った。日本人は規則を守るとか時間を守るとか、私も聞いたことはあったが、余り信じていなかった。日本に着いた初日、日本人の生活をよく観察した。公園の高い所から見下ろすと、車と通行人が見える。通行人はちゃんと横断歩道を歩き、車も我が物顔で運転することなく、通行人に譲っていた。私はとても驚き、はっと悟った。これこそ本当の日本人なのだ！と。

日本側の受け入れスタッフはいつも優しく控え目な態度で、品性と教養があり、質問すると必ず答えてくれる。全てが行き届いている。たとえそうでないことがあっても、私達も理解しているし、私は心から感謝している。

日本の高校生との交流に、とても感動した。どこの国にも優秀な人はいるものだ。日本の高校生は学びを楽しみ、学びの中から楽しみを見つけて伸ばす努力をする。まれにサッカーをしたりと、課外活動にも参加できる。しかし中国にはやってもやっても終わらない試験問題があるだけだ。計り知れないプレッシャーの中で、同じく努力をする。

もうすぐ荷物をまとめて、私を産み育ててくれた故郷、中国へ帰る。私は心の底から日本が好きになった。日本にはまだ行ったことのない所が沢山ある。その時が来れば、然るべき人達を連れて、もう一度この国、日本に来よう。

○今回の訪問で一番印象に残ったのは狭山高校剣道部の一人の男子学生だ。剣道体験では言葉の壁があったが、皆積極的に私達と交流してくれ、根気よく剣道の動作を教えてくれたおかげで、私達も少し剣道について知った。一番感動したのは、出会って数時間足らずなのに、彼が自分の普段使っている竹刀を私達の団のある男子に贈ったことだ。彼は竹刀袋の自分の名前を消し、“Present for China”と書いた。私達は彼の真心と情熱に深く心を打たれた。帰国したら何とか彼に連絡を取ってお返しをし、連絡を取り続けようと思う。

周囲の人に一番伝えたいことは、日本では生活の中に科学技術が応用されていることと、社会が伝統文化を大切に守っていることだ。日本にいと科学技術が生活の質を上げていると常に感じる。各種スマート家電は生活を便利にするが、それが一般の人達の日常生活の中に入り込んでいるのがすごい。古都京都には旧跡が沢山あるが、政府から個人まで社会全体で保護に努めている。旧跡を宝と見なしても、そこで終わらず、絶えず外から新しい文化を取り入れ、吸収、利用し、日本独自の伝統文化を形成している。

○一番印象深いのはホームステイで自ら日本文化を体験したことだ。たった一日という

短い時間だったが、一緒に明日香村を観光したり、家事をしたり、手仕事をしたり、歌ったり踊ったりした。言葉は通じないが、根気よく耳を傾けてくれて、私達に心から微笑んでくれた。私はいっそう温もりを感じ、家族になれた気がした。

帰国したら、日本人の親切心や日本の文化、新しい物を創り出す理念を友達や家族に伝えたい。